### 1-11　成長する

石井(2012)で主張したように、日本神話は日本の神々の成長物語という側面がある。神々が変化してゆくのである。

例えば、スサノオは、父親であるイザナギのいうことを聞かず、母親のイザナミの国へ行きたいと駄々をこね、イザナギから見放される。そして姉のアマテラスが支配する高天原に行く。このとき、アマテラスもスサノオが攻めてきたと思い、武装して待つ。

この話で、スサノオは駄々をこねるところ、また、アマテラスが弟を信用しない点が、両神が、まだ成長段階にあることを示している。

スサノオは、その後、誓約（ウケイ）の儀式で、自分の持ち物から女神が生まれたことを自分自身邪心のないことの証拠とし、勝手に勝ち名乗りをあげ、逆にやりたい放題する。アマテラスはスサノオに対して適切な処置をせず、天の岩戸に身を隠す。やりたい放題のスサノオも、何もせず岩屋にこもるアマテラスも、まだ大人的ではない。

しかし、スサノオは高天原を追放されたあと、八岐大蛇を退治することになり、一躍英雄となる。また、アマテラスは岩戸から出てから、立派な神となる。両神の成長がここに見られる。

### 1-12　死ぬ可能性がある

神は不老不死という面が一般的、特に、西洋とイスラムの一神教の神は、全知全能の創造神なので、神の死はあり得ない。

しかし、日本神話において、最初の神の死は、日本を産んだイザナギ・イザナミ神話に起こる。イザナミが火の神であるカグツチを産んだ時、その火で焼かれて死ぬ。イザナミが生き返ることはない。黄泉の国の食べ物である「ヨモツヘグイ」を食したからである。

### 1-13　最高神が女性

全知全能の神は、例えばキリスト教の God は天の父と言われるように、父性を持つ。多神教の世界でも、最高神、例えば、ギリシャ神話のゼウスも男神である。

これに対し、日本の最高神と言える神であるアマテラスは、女神である。

### 1-14　男女平等・融和の側面がある

1-13 で、日本の最高神がアマテラスであると言ったが、勿論、日本を産んだイザナギ・イザナミも極めて重要な神である。イザナミは死んで黄泉の国（＝ケガレの世界）へ行くので、神としてのレベルが落とされて、イザナギがその代わり、黄泉の国のケガレを払い、禊をするので、この時点で、イザナギ（男神）が重視されているのが分かる。

イザナギがまず重視されて、その後、イザナギの左目から生まれた神であるアマテラスが重視される。

つまり、重要な神が、イザナギ（男神）からアマテラス（女神）へシフトしている。これで、男女平等を図っているのである。

父であるイザナギの命令に背き、高天原の姉であるアマテラスに会いに来たスサノオは、悪心がないことを証明するため、誓約（ウケイ）を行うが、この儀式が男女平等の考え方を如実に表している。

まず、アマテラスがスサノオの「十拳剣[トツカノツルギ]」を受け取り、それを三段に折って、吹きだした息の霧から３柱の女神（宗像三女神）が生まれた。次に、スサノオがアマテラスから「八尺の勾玉の五百箇のみすまるの珠」を受け取り、これを噛み砕き、吹きだした息の霧から５柱の男神（正勝吾勝勝速日天之忍穂耳命[マサカツアカツカチハヤヒアメノオシホミミノミコト]が重要）が生まれた。この占の儀式は、男女を同じような行動をさせているので、男女平等と言える。しかも、男神（スサノオ）の剣から女神が、女神（アマテラス）の珠から男神が生まれているので、男女が融和しているとも解釈できる。

日本神話の男女平等・融和観は、楽器の世界にも言える。楽器の代表として「笛」と「太鼓」が挙げられるが、笛はその形状から男性を象徴し、太鼓はそのふくよかさから女性を象徴する。楽器の代表が、男女それぞれの象徴を持つ楽器で表現されることは、如実に男女平等観が見て取れる。

更に、男性原理である「笛」から出るのは「音」（ね）、女性原理である「太鼓」から出るのは「音」（おと）である。「ね」は女性的で、「おと」は男性的である。つまり、男性原理から女性的な「ね」が、女性原理から男性的な「おと」が出るのは、男女融和を図っている証拠である。[注8]

### 1-15　正々堂々と戦わない

ギリシャ神話やその他の神話でも、神々の戦いや、神と悪魔に相当するものとの戦いの話はあるが、神は皆、正々堂々と戦っている。

ところが、日本神話に出てくる神は正々堂々とは戦っていない。例えば、スサノオが高天原で暴れた時、アマテラスはスサノオと対決せずに、天の岩戸に隠れてしまう。

スサノオが八岐大蛇と戦うときは、八岐大蛇に酒を飲ませて酔ったところを切りつけて八岐大蛇を降伏させている。

### 1-16　１人で決めない

通常、偉大な神は、だれにも相談することなしに物事を行う。例えば、ギリシャ神話の最高神であるゼウスは、一人で色々決めている。一神教の神なら、当たり前のごとく、全て自分で決めている。

ところが、日本神話の神々は、一人では物事を決めない。例えば、イザナギとイザナミの神生みで、最初に生まれた神を蛭子といい、足が立たなかったので、葦船に乗せて流したという神話のくだりがある。